

幼児用遊具～空環具 Kuu・Kan・Goo

芸術学部 デザイン学科 教授 桑原 淳司

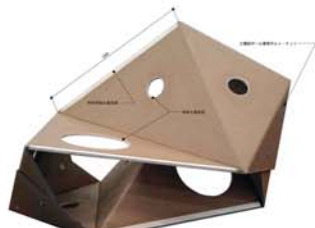
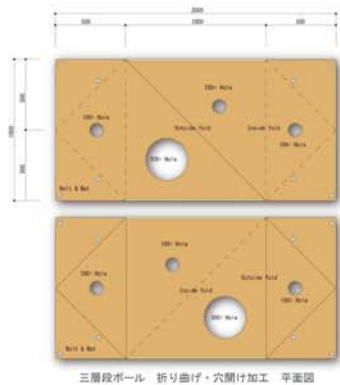
目的・背景

空環具 Kuu・Kan・Goo は、保育園や幼稚園のプレイホールなどで使用される既製品の遊具では体験できない新たな遊び空間を子ども達に提供し、小集団の遊び行動をより魅力的なものにすることを目的に開発した三層ダンボールを用いた試作品である。

原理・方法

三層段ボールの定尺寸法である厚さ 15mm・幅 1m・長さ 2m の 2 枚を折り曲げ、四隅を重ね合わせ、ボルト接合するだけで小さな空間ができ上がる単純な原理から、全体を捻ると空間が自在に変化するため、円形の開口部を持つ遊具として開発したものである。

教職員が手軽に組み立て、分解、収納ができる新たな遊具として、梱包等で使用される三層段ボールを使用。安価、かつ単純な加工方法のみで、立体的な空間化が実現でき、子供の自発的な遊びの展開を促すことができる。使用しない時は段ボールを固定している四隅のボルトを外し、平面に戻し壁に立てかけたり、隙間に収納することができる。



Type 3 ひねり置き

Type1 横置き



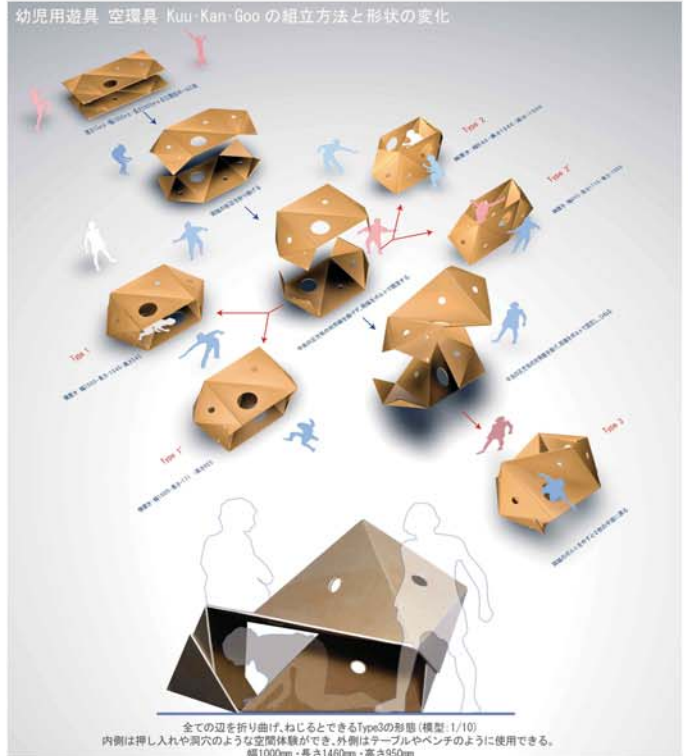
Type2 縦置き



Type2 縦置き内側



三層段ボール用
専用ボルト 6φ・ナット
座金 36φ付



結果・まとめ

遊具と遊び行動の有効性を検証するには、幼児の利用実態調査が欠かせないため、練馬区内にある認定こども園・力行幼稚園の協力を得て試用を行った。

特徴的な試用結果

Type 1, 1' (横置き) の同時最大利用人数は内外共 15 人ほど。高さ 55cm ほどの水平面に多くの園児が乗り、飛び跳ねる行為が特に顕著であった。水平面に設けられた直径 30cm の穴は出入りに有効利用された。

Type 2, 2' (縦置き) の同時最大利用人数は内外共 15 人ほど。中に入る行為と一番上まで登る行為が同時に繰り返された。直径 10cm の穴を内外から手がかり・足がかりに上に登る行為が特に顕著であった。年長組の男女数名が、教室内の椅子を利用し、直径 10cm の穴を足がかりにし、一番上に登れるように工夫していた。

Type 3 (ひねり置き) の同時最大利用人数は内外共 13 人ほど。水平面・垂直面を持たない形状であるが、外側はよじ登り、内側はすり抜け遊びとして交互に利用していた。

軽量であるため、子ども達が置き方を変え、移動させ、遊び場所や遊び方を工夫する様子が繰り返され、遊具としての機能が見出された結果となった。

Type 3 ひねり置き



応用分野・用途

遊具メーカーとの共同開発による製品実用化・商品化・幼児用室内遊具

特願2015-033848